

## 第22回 関東地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 平成26年 2月17日(月) 15:30~17:20
2. 場 所 さいたま新都心合同庁舎2号館 14階「災害対策本部室」
3. 出席者 宮村委員長、池田委員、池谷委員、柏谷委員、清水委員、林委員、前田委員、牧林委員
4. 議 事 (1) 北千葉導水路の定期報告  
(2) 浦山ダムの定期報告
5. 主な意見
  - (1) 北千葉導水路の定期報告について
    - (委 員) 排水機場でのポンプ排水により、被害を軽減していることについて、地域への情報提供をどのように行っているのか。
    - (事務局) 情報提供についてはホームページ等に対応している。
  
    - (委 員) 手賀沼浄化施設の効果についてレポートに加えて頂きたい。
    - (事務局) 定期報告書の概要にも記載する。
  
    - (委 員) 導水路へのカワヒバリガイが付着しないための対策は、どのように考えているのか。
    - (事務局) 付着しづらいシリコン系の塗装を試験的に実施することを検討している。
  - (2) 浦山ダムの定期報告について
    - (委 員) 堆砂の根本的な課題として、ダム周辺の植林が大きな原因の一つと思うが、どのように考えているのか。
    - (事務局) 地質上の特徴、急峻な地形と河床勾配であることが要因と考えている。植生の影響については、文献でもよくわかっていない。
  
    - (委 員) クマタカが健全な生態系の頂点であり、6年間繁殖していない。自然再生の対策をどう考えているのか。
    - (事務局) 当該つがいに関して、ダム周辺施設において繁殖期および夜間の利用を禁止している。平成19年以降の繁殖が確認されていない原因は不明であるが、繁殖状況を注意深く監視していく。
  
    - (委 員) 平成23年1月の底層DOが低いのが、曝気循環による躍層形成と崩壊についてどう考えるか。
    - (事務局) 夏場から底層DOが徐々に下がりはじめ、循環期に入り躍層が完全に壊れる1月頃には回復する。ただし、貯水池運用および気象条件により循環期に入る時期が前後するため、DOの回復時期もその影響を受けていると考えている。